

観光文化委員会



3月13日(水)広島市において、約40名の出席のもと、2023年度第2回観光文化委員会を開催しました。

当日は、株式会社地球の歩き方の宮田統括編集長によるご講演の後、当委員会の2023年度実施結果および2024年度事業計画(案)について報告・審議し、原案どおり承認されました。ここでは講演の概要を紹介します。

「旅行ガイドブック『地球の歩き方』がこれから生き抜くためにやっていること」

株式会社地球の歩き方
取締役／統括編集長
宮田 崇氏



■創刊45年を迎える『地球の歩き方』

『地球の歩き方』シリーズは、1979年に創刊し、欧米各国はもとより太平洋やインド洋の島々まで約120タイトルを刊行する海外旅行ガイドブックである。他社商品と比べ、観光面だけでなく文化や歴史など、その国自体を学べる圧倒的な情報量を誇り、個人旅行者に支持されてきた。日本人向けの本であるため、日本から赴いたスタッフが情報収集・制作を行うことをポリシーとしている。

また、他社にはないニッチな分野の本も数多く出しており、若年層女性向けの『aruco』シリーズや、国内向けの『御朱印』、『島旅』といったシリーズを刊行してきた。

これらにより、旅行ガイドブック全体の市場は縮小するなか、2017年以降、売上は右肩上がり推移していた。しかし、2020年に発生したコロナにより、当社は甚大な影響を受けることになる。

■コロナ禍による危機を手探りで乗り切る

コロナ禍で、海外取材は中止を余儀なくされ、また、ガイドブックもほとんど売れなくなったため、一旦、全書籍の企画をストップする事態となった。何かしないと全員が倒れるという危機感のなか、「配本収入の範囲内

で、日本人が旅行に行けない時でも売れる本を作る」という考えのもと、手探りで様々なシリーズ制作に着手した。

すると、国内の身近な旅にマッチした『御朱印』シリーズや、誰かに話したくなる世界各国の雑学を集めた『旅の図鑑』シリーズなどが思わぬヒットとなり、会社の危機を救うこととなった。

■『地球の歩き方』ブランド拡大中

現在、当社が力を入れているのが国内版である『J』シリーズである。東京オリンピックをきっかけに作成した『東京版』を皮切りに、2024年3月現在で15タイトルを刊行し、今年7月には『広島版』の刊行を予定している。地球の歩き方らしく、県内全ての市町村を網羅し、約500ページの大冊となる見込みなのでご期待いただきたい。

また、最近ではガイドブック以外の事業も手掛けている。2020年に開始した多言語旅行情報サイト「GOOD LUCK TRIP」では日本全国の観光スポットや記事を紹介しており、現在、月間700万回以上の閲覧数を誇る日本最大級のインバウンド向けメディアとなっている。その他、カプセル玩具「豆ガシャ本」や、グミ・レトルトカレーの食品販売など多岐にわたる事業を展開している。

売れない企画と感じたら速やかに縮小・撤退の判断をしつつ、いろんな種をまいて事業の多角化を図ることが、いかなる逆風にも耐えうる企業になるということと確信しており、今後も様々な形でファンの皆さまの期待に応えていきたい。

(担当：菅坂)